

視点 フェール・セーフを最優先に

第二特別調査室長

とみやま てつお
富山 哲雄

私事で恐縮だが、先日、妻の自転車が某スーパーで盗まれてしまった。妻曰く「あんなボロ自転車を盗む人の気が知れない。鍵をかけなかったのは自分の責任だからしょうがないけれど」、「ちゃんと防犯登録してあるから戻ってくるかもしれないぞ」と私は気休めを言ったが、実はかなりの確率で戻ってくると内心思っていたのだ。というのも、数年前、長男が大学に通っていた頃、やはり、駅前においてあった自転車を盗まれたことがあったが、防犯登録をしてあったため、数日後に警察から連絡が入り、ご丁寧にパトカー2台で我が家に長男の盗まれた自転車を届けてくれたことがあったからだ。案の定2～3日して妻の盗まれた自転車は戻ってきた。今回連絡をくれたのは警察ではなく、親切な会社の掃除婦の方だった。やはり防犯登録の威力は大きい。鍵をかけ忘れても防犯登録で盗まれた自転車が戻ってくることもあるのだ。例えば適切ではないかもしれないが、いわゆるフェール・セーフの一つの考え方であるかもしれない。

ところで、情報化社会の中で個人情報流出する事件が後を絶たない。個人が日常的に使っているパソコンの世界でも、ウイルス、スパイウェア、フィッシング等個人情報が流出する危険性がインターネット等には氾濫している。したがって、いわゆるセキュリティーソフトを使うことが重要になる。知らぬ間に、銀行口座から預金が引き落とされてしまったでは済まされない。よって、フェール・セーフが必要になるわけである。何かが起こる前に最善の防衛策を講じておくことの大切さが今問われている。

とりわけ、ものづくりの観点からは、近年、信頼性を大きく揺るがす事故が相次いでおり、憂慮される状況にある。大型トラック、回転扉、エレベータ、石油ファンヒータ、ガス湯沸かし器等のトラブルは尊い人命を犠牲にした痛ましい事故であった。また、ペコちゃんて有名な老舗の洋菓子会社も衛生管理上の問題で世の批判を浴びたところである。

ものづくりは我が国経済発展の源泉であったと言っても過言ではない。その日本で人命を軽視するようなトラブルが多発しており、ものづくりへの信頼性が揺らいでいる。理工系離れが進んでいるとか、団塊世代の職人芸がうまく伝承されない等の問題もあるが、ものづくりの原点は、それを利用する人々の安全性確保が大前提とならなければならない。競争が激化するグローバル時代の中にあってもコスト最優先の考え方が安全性を犠牲にしているか再点検が必要ではないだろうか。この際、安全面を第一としたフェール・セーフの考え方を徹底すべきである。人間にはどうしてもミスがつきまとう。そのミスを最小限に食い止め、ミスをしたとしても大きなトラブルにならないシステム（フェール・セーフ）へ不断の地道な努力が必要であるし、このことにより、我が国のものづくりに対する世界的な信頼性向上ひいては国際競争力の強化につながっていくものと思われる。